

スポーツ競技団体の普及活動に関する研究
 Popularizing Activities of Sports Organizations
 1K08B007-7 浅田瑛
 主査：松岡宏高 副査：木村和彦

【目的】

わが国におけるスポーツの普及に関する研究は、特定のスポーツに注目し、歴史的な観点から分析する研究が多かった（須田ら,2004;高木・真田,2007）。一方で、さまざまなスポーツに関するデータを収集し、それを横断的に分析した研究は少ない。特に、スポーツを統括するスポーツ競技団体（以下、競技団体）が展開している普及活動については、「競技団体間で普及活動にどのような違いがあるのか」、「直面している問題は普及の進度によってどのように異なるのか」といった点について、明らかになっていないことが多い。そこで本研究では、競技団体の普及に関する戦略と活動の現状について、質的データを用いて明らかにすることを目的とした。

【方法】

はじめに、スポーツを図1のように4つのグループに分け、調査対象を選定する際に用いた。「実施人口」は、笹川スポーツ財団が算出した推計実施人口を、「メディア露出量」は、ニホンモニターが算出した「競技別報道量推移」の2008年から2010年までの平均値を、それぞれ用いた。グループ間の境界線は、実施人口が「100万人以上か、未満か」、メディア露出量が「1年平均30時間以上か、未満か」に設定した。

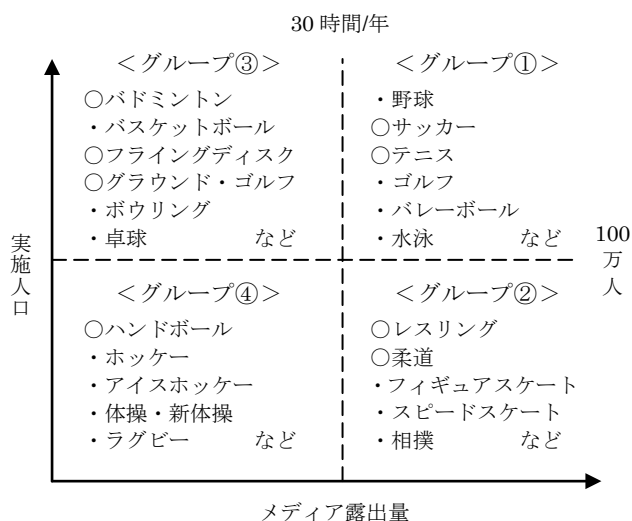


図1 実施者数とメディア露出量によるスポーツの分類

図1で、名称の前に「○」を付けたスポーツを統括する競技団体を調査対象とし、半構造化面接法を用いたインタビュー調査を実施した。なお、日程の都合上インタビューが行えなかった全日本柔道連盟には、自由回答形式の質問紙調査を実施した。それぞれの回答から、「グループ毎に特有の傾向が見られるのか」、「普及活動に影響を与えているものは何か」、そして「取り組むべき課題は何か」といった点に注目して分析した。

【結果と考察】

i) グループ毎の特徴

調査の結果から、グループ毎に一貫した特徴は見ら

れなかった。スポーツを分類する際に、実施人口とメディア露出量しか考慮に入れなかったことと、調査した団体数が少なかったことが原因として考えられる。

ii) 普及活動に影響を与えている要素

普及活動に影響を与えている要素としては、「実施環境の整備の状況」と「指導者の数および質」が確認された。実施環境に関しては、特に、学校部活動に取り入れられているか否かが、普及活動の方向性を大きく左右している。部活動が盛んなスポーツは、一度始めた人を継続させるための活動に注力しているのに対し、部活動が盛んでないスポーツは、実施環境の整備に取り組んでいる。

一方指導者は、そのスポーツに関する情報を人々に直接伝えることができるため、スポーツの普及に重要な役割を担っている。指導者の重要性については、グループを超えてあらゆる競技団体が強調していた。

iii) 普及活動とその課題

競技団体が取り組むべき課題は、「類似スポーツの戦略的活用」、「社会人およびシニア層の会員確保」、そして「地方競技団体との連携強化」が挙げられる。

近年、ビーチサッカーやタグラグビーのように、一つのスポーツから派生する形で新たなスポーツが生まれている。このような類似スポーツの多くは、ルールが単純化されており、より気軽に参加できるため、元のスポーツを始めるきっかけとなり得る。しかし、新たなルールが元のルールと大きく異なる場合に、類似スポーツが元のスポーツの普及を促進しない事例が確認された。競技団体は、ルールや技術、用具などに関して、元のスポーツとの類似性が損なわれないように留意し、類似スポーツを戦略的に活用しなくてはならない。

多くの競技団体においては、社会人やシニア層の登録者が、若年層のそれと比べて極めて少なく、その会員確保が課題となっている。調査では、レクリエーション志向の大会の充実、登録費の減額、そして登録手続きの簡素化などが具体的施策として挙げられた。

競技団体の中には、都道府県の登録者数を把握していない団体や、明確なビジョンをもっていない団体が多々存在する。適切な経営管理をするためには、中央競技団体が明確なビジョンを示し、地方競技団体の役割や行動を統合し、その成果を評価しなくてはならない。前述した類似スポーツの戦略的活用やレクリエーション志向の大会の充実などは、地方競技団体がそれぞれの地域性を踏まえた上で取り組むべきである。中央競技団体は、地方競技団体と密接にコミュニケーションを取り、情報を収集し、それを他の地方に提供するという役割を果たさなければならない。